平成 30 年4月 23 日

各　　位

会社名　株式会社ソフィアホールディングス
代表者名　代表取締役社長 新村　直樹
（コード番号　6942）
問合せ先　経営企画室　浅野　茂雄
（TEL　03-6265-3339）

子会社エリアビイジャパンにおいて映像データをビジネスに活用する『映像 CIM クラウドソリューション』提供開始のお知らせ

当社連結子会社であるエリアビイジャパン株式会社が、第一電子株式会社、株式会社アロバ、スリーフィールズ株式会社と共同で、映像データをビジネスに活用する『映像 CIM クラウドソリューション』の提供を開始しましたので、別紙のとおりお知らせいたします。

以 上

Press Release

報 道 関 係 各 位

2018 年 4 月 23 日
第一電子株式会社
エリアビイジャパン株式会社
株式会社アロバ
スリーフィールズ株式会社

映像データをビジネスに活用する『映像 CIM クラウドソリューション』提供開始

～高セキュリティを実現したクラウド型タイムラプス映像活用サービス～

事務機販売修理業及び OA 機器、システムソリューションの販売を提供する第一電子株式会社（本社：兵庫県神戸市、代表取締役：髙取　宏行、以下、第一電子）、企業向けセキュリティ関連ソリューションの開発と販売を行うエリアビイジャパン株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：鈴木　一成、以下、エリアビイジャパン）、監視カメラ管理ソフトウェア「アロバビュー」を提供する株式会社アロバ（本社：東京都新宿区、代表取締役：内藤　秀治郎、以下、アロバ）および、土木建設向け映像活用サービスを提供するスリーフィールズ株式会社（本社：東京都中野区、代表取締役社長：原間井　晴彦、以下、スリーフィールズ）は、映像データを自動的にタイムラプス[1]変換し、解析、編集、評価等を容易に行うことにより、土木公共事業をはじめとする様々なビジネスで映像を活用させるセキュアな映像プラットフォーム『映像 CIM クラウドソリューション』の提供を開始したことを発表します。これにより映像データを容易に一括管理して、ビジネスに活用することが可能になります。

モバイルインフラを始めとする ICT 技術が進化するにつれ、映像データのビジネス活用がこれまで以上に期待されています。土木・建築現場においても、国土交通省の指導の下、CIM（Construction Information Modeling）[2]の制度化が進みつつあり、3次元モデル化による情報共有のプラットフォーム構築の難しさから、分り易く、正確な情報共有を行う手段へのアプローチが模索されつつあります。

このような背景に伴い、セキュアかつ手軽に、土木・建築の施工現場を録画し、その映像データを管理・解析することにより、進捗管理、不正防止、防犯、安全管理、報告業務、社員教育など、幅広い用途に活用できるソリューションが求められています。

---

[1] タイムラプスとは、静止画をつなぎ合わせて作ったコマ送り動画のことで、再生時間を短縮でき、動画データの容量が大幅に圧縮されることから、特定の場所における人の流れや製品のメイキング・製造工程の動きをわかりやすく視聴者に見せる場合に多く用いられます。

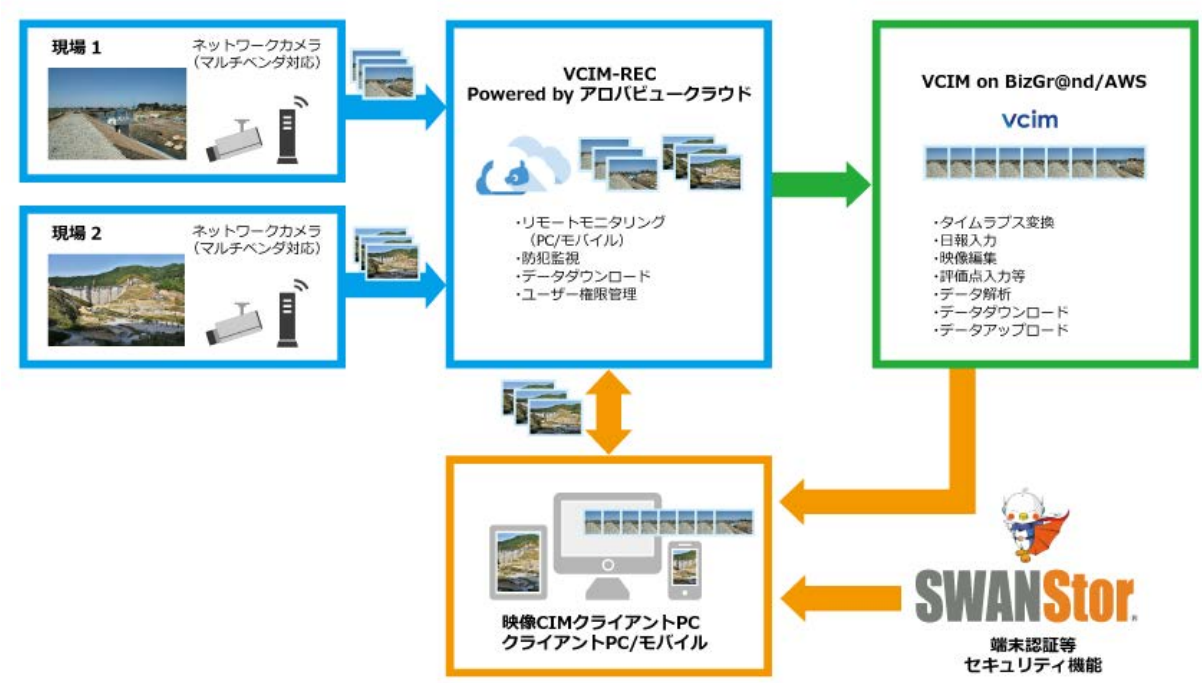
[2] CIM （Construction Information Modeling） とは、調査・設計段階から 3 次元モデルを導入し、施工、維持管理の各段階での 3 次元モデルに連携・発展させ、あわせて事業全体にわたる関係者間にて情報を共有することにより、設計段階での様々な検討を可能とするとともに、一連の建設生産システムの効率化を図るもの。

この度提供を開始した『映像 CIM クラウドソリューション』は、スリーフィールズが提供する土木・建築向け映像活用サービス「VCIM（ブイシム）」と、アロバが提供するクラウド型監視カメラ録画サービス「アロバビュークラウド」を連携することで、施工現場の映像データを一括してモニタリング、録画データ再生、タイムラプス自動変換、映像解析し、業務に活用できる新しいソリューションです。

さらに映像データへのアクセスには、エリアビイジャパンが提供する大手企業を中心とした 700 社の導入社数と、28,000 本以上の出荷実績を持つリモートアクセスサービス「SWANStor（スワンストア）」のセキュリティ機能を利用します。これにより、監査証跡のためのアクセスログは勿論、独自の端末認証機能を提供し不正アクセスをシャットアウトするなど、これまで以上にセキュリティレベルの高い映像データの管理とアクセス環境を備えたプラットフォームを実現しています。

『映像 CIM クラウドソリューション』を導入することで、現場に監視カメラを設置すれば、自社で映像データ管理インフラを構築することなく、分散する複数現場からの映像データを一括管理することができます。さらに本ソリューションは、アクセスする端末を特定し、セキュアな環境で接続するため、安心してビジネスに活用することが可能です。

<u>映像 CIM クラウドソリューションのイメージ</u>



映像 CIM クラウドソリューションの主な機能

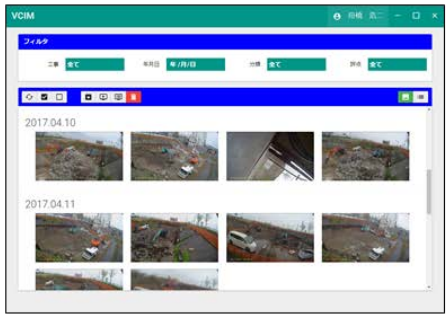
- 土木・建築現場で各種ネットワークカメラにより撮影された映像データを、アロバが提供するクラウド型（オンプレミス型も在り）監視カメラ録画サービスによる、録画保存、リモートモニタリング（PC/モバイル）、防犯監視、映像データダウンロード、またユーザー権限管理
- スリーフィールズの VCIM により、録画された映像データを、タイムラプス変換、日報入力、映像編集、評価点入力、データ解析、映像データのアップロード/ダウンロード、教育などで活用
- エリアビイジャパンの SWANStor を介した、 システムへのセキュアなアクセス

映像管理画面イメージ

<メニュー画面>
映像登録、映像一覧、日報入力、日報検索を選択。



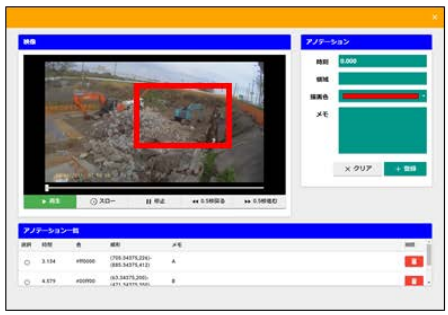
<大容量データ管理>
タイムラプス映像をサムネイル表示。施工情報を一元管理、ストリーミングによる映像データ閲覧可能。



<日報・評価点入力機能>
日報入力、担当者別に項目による評価点入力可能。



<アノテーション機能>
映像を再生しながら特定のポイントで映像にオーバーラップさせ矩形とメモを入力できます。



この『映像 CIM クラウドソリューション』は、土木・建築現場での利用だけでなく、以下のような幅広い分野・用途での利用、活用が期待されます。

- **製造業（工場・設備等）**
  労務管理、進捗管理、防犯、業務管理・報告、マーケティング利用、広告・宣伝への活用
- **農業**

生産物の育成管理、自然災害の確認、鳥獣対策、防犯

- **官公庁・地方自治体**
  一般市民からの登校動画の共有、活動報告、防犯対策、事件防止
- **商業施設**
  顧客の導線把握、導線情報からのマーケティング活用
- **報道・メディア**
  素材伝送利用、一般市民の登校動画の共有、ニュース等のメディア利用

映像 CIM クラウドソリューションの販売は、第一電子がマスターディーラーとなって行います。サービスの詳細は、添付の参考資料の他、URL:http://www.ddk.ne.jp/publics/index/140/ をご覧ください。

第一電子について

- 会社名　第一電子株式会社
- 本社住所　兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬 301 番地
- 創立　1954 年 11 月 01 日
- 事業内容　事務機器・OA 機器、システムソリューションの販売及び、メンテナンス・サポート、システムの受託開発、インターネットプロバイダ事業
- URL　http://www.ddk.ne.jp

エリアビイジャパンについて

- 会社名　エリアビイジャパン株式会社
- 本社住所　東京都新宿区下宮比町 2-26　KDX 飯田橋ビル 4F
- 創立　2001 年 11 月
- 事業内容　企業向けセキュリティソフトウェア、機器の開発、販売
  以上に関連するプロフェッショナルサービスの提供
- URL　https://www.areabe.com/

アロバについて

- 会社名　株式会社アロバ
- 本社住所　東京都新宿区西新宿 6-6-3　新宿国際ビルディング新館 8 階
- 創立　2015 年 5 月 15 日
- 事業内容　ネットワークカメラ管理ソフトウェア事業
- URL　https://www.arobaview.com/

スリーフィールズについて

- 会社名　スリーフィールズ株式会社
- 本社住所　東京都中野区弥生町 2-41-17 東京コンテンツインキュベーションセンター
- 創立　2016 年 1 月
- 事業内容　セキュリティソリューション事業・クラウドサービス事業・先端技術開発事業
- URL　http://www.3fls.jp

サービスや製品に関するお問い合わせ

第一電子株式会社　東京事業所
担当：養田（ようだ）、鈴木
電話：03-5419-6761
Email：e-cim@ddk.ne.jp
〒108-0073
東京都港区三田 2 丁目 7-7　芳和三田綱坂ビル 101

このリリースに関するお問い合わせ

オン・ボード
広報代理窓口
海藤　みどり（かいとう　みどり）
電話：090-9309-6125
Email: mkaito@onboard.jp

参考資料

映像CIMクラウドサービス



第一電子株式会社

映像ＣＩＭクラウドサービスの概要

CIMの考え方

・計画・設計・施工・維持管理におけるデータモデル活用によるシームレスな情報共有
・維持管理におけるCIM情報利用によるインフラメンテナンスの効率化
・CIM情報の資産化のためのデータモデルの利用

課題

・個人にノウハウが集約される場合が多い（ノウハウの共有が必要）
・現場の判断が経験的感覚的に行われる（探知能力、視認能力による判断）
・高齢技術者退社に伴うノウハウの喪失の懸念
・情報化スキルの不足とコスト面で情報化が進まない

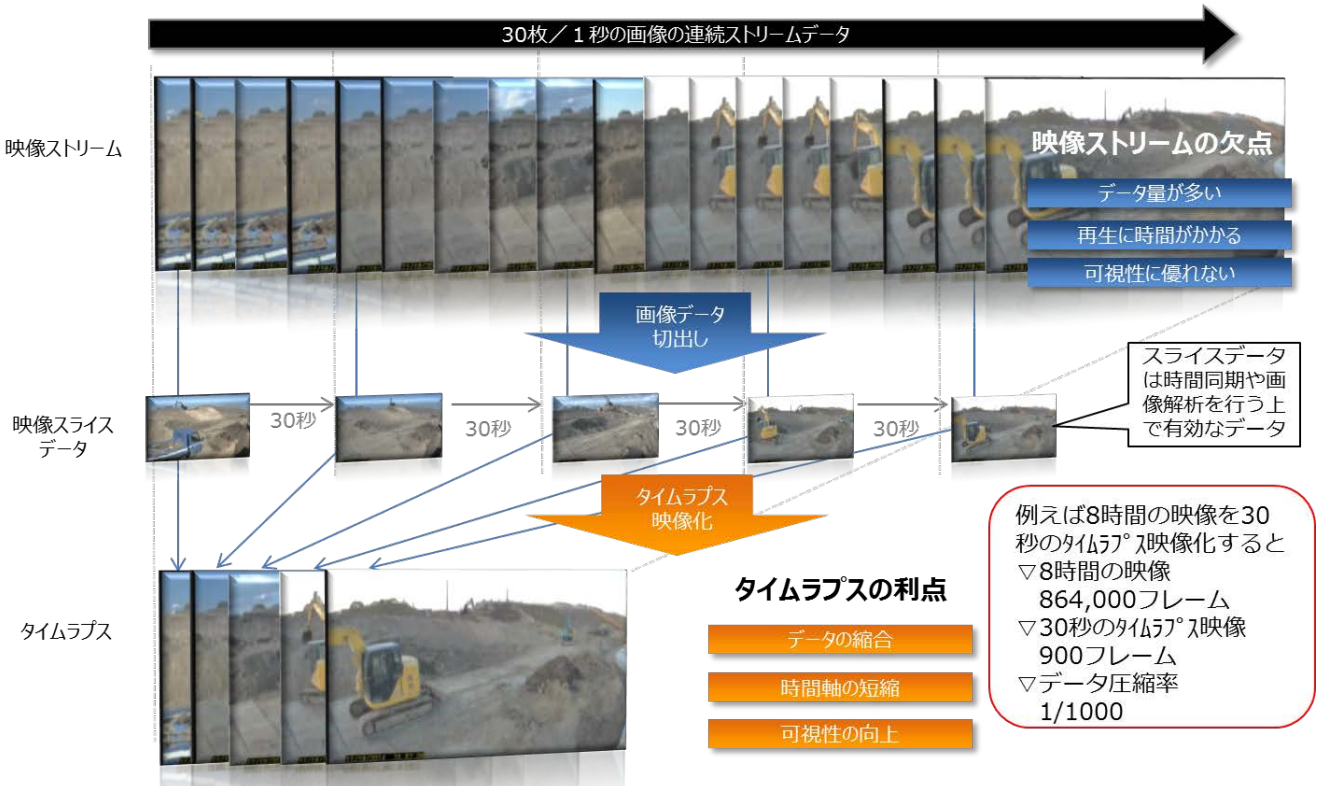
目的

・施工現場の見える化
・映像に着眼点（進捗・品質・安全・公衆災害・技術継承・施工技術等）を持ち映像の活用効果を創出する
・コミュニケーション向上
・施工属性情報の定量化
・映像を用いた情報化の推進（知財化）
・防犯面の用途も可能



タイムラプス映像

映像は時間軸の連続した画像情報ですが、データ量が多く可視性に優れない等、扱いが難しいデータです。タイムラプス映像は、インターバル撮影、微速度撮影とも言われ、長時間撮影された映像を短い時間に縮めて再生することにより、データ量を減らし可視性を高めることが出来ます。

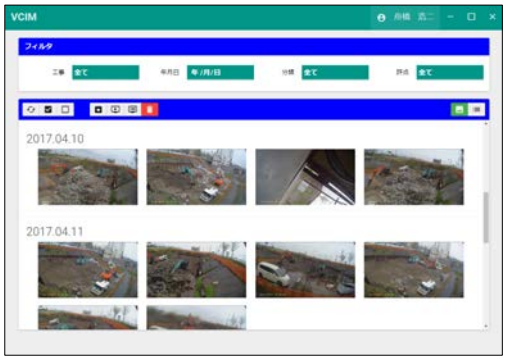


映像CIMクラウドサービス

<メニュー画面>
映像登録、映像一覧、日報入力、日報検索を選択。



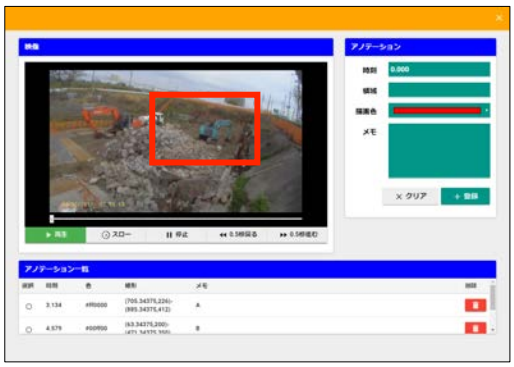
<大容量データ管理>
タイムラプス映像をサムネイル表示。
施工情報を一元管理、ストリーミングによる映像データ閲覧可能。



<日報・評価点入力機能>
日報入力、担当者別に項目による評価点入力可能。



<アノテーション機能>
映像を再生しながら特定のポイントで映像にオーバーラップさせ矩形とメモを入力できます。



映像利用の効果

映像の効果	見られ方（着眼点）
◆タイムラプス映像による工事の振り返りが容易 ◆工事進捗状況の見える化が実現	工程進捗
◆時系列でより詳細な作業手順が確認 ◆品質の不良要因の確認が迅速化 ◆映像により出来映えの確認	品質・出来映え
◆遠隔でも現場のリスク確認が可能 ◆本社や発注者などとのコミュニケーションが良好	安全・衛生管理
◆映像が俯瞰的なため、人目線より幅広い空間認知が可能 ◆周辺の交通など公衆災害への配慮が徹底	公衆災害
◆時系列の映像から施工の理解が分り易くなっている。 ◆映像の社員教育などの利用が容易	技術継承・施工技術

映像CIMカメラシステムの概要

映像CIMクラウドサービス　VCIM

サービス内容（タイムラプス変換機能、日報入力機能、アノテーション機能等）

基本容量１ＴＢ、ユーザー数無制限　　※年間ご契約になります。

映像CIMクラウドサービス　VCIM-Light

サービス内容（タイムラプス変換機能、日報入力機能、アノテーション機能等）

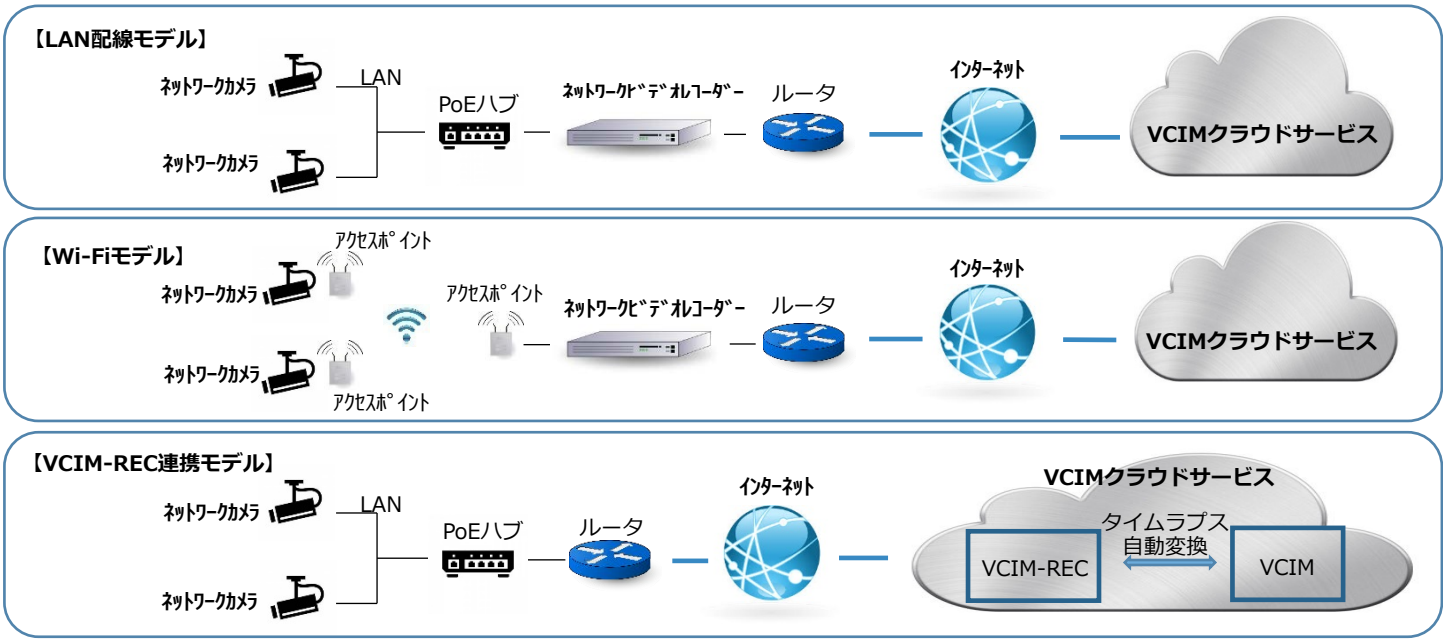
基本容量300GB、ユーザー数無制限　　※年間ご契約になります。

映像CIMクラウドサービス　VCIM-REC（VCIMのご契約が必須になります。）

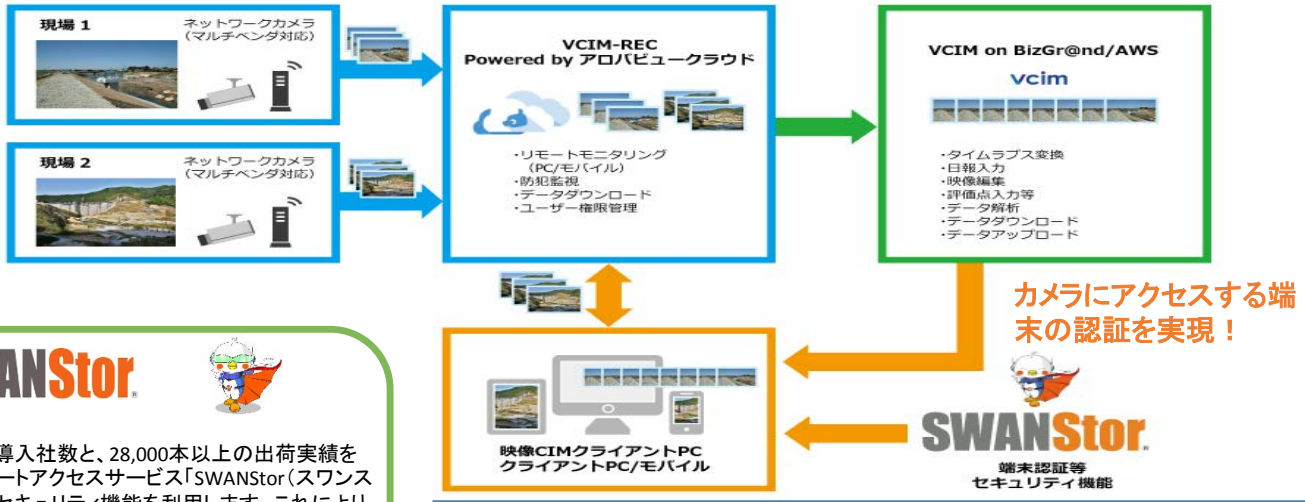
サービス内容（映像データ自動格納クラウド）

1カメラにつき、1日10時間録画、1ヶ月保存　※年間ご契約になります。

ネットワーク構成例



映像ＣＩＭクラウドソリューションのイメージ



SWANStor

700社の導入社数と、28,000本以上の出荷実績を持つリモートアクセスサービス「SWANStor（スワンストア）」のセキュリティ機能を利用します。これにより、監査証跡のためのアクセスログは勿論、独自の端末認証機能を提供し不正アクセスをシャットアウトするなど、これまで以上にセキュリティレベルの高い映像データの管理とアクセス環境を備えたプラットフォームを実現(オプション)

■お問い合わせ

第一電子株式会社　東京事業部

〒108-0073 東京都港区三田2-7-7 芳和三田綱坂ビル1F
TEL: 03-5419-6761　FAX: 03-5419-6762
http://www.ddk.ne.jp

2018年4月現在　S00413